

雅風会たより

第7号



目次

- ◆ はじめに
- ◆ 第59回仏教美術展報告
- ◆ 川村先生の作品から - 白檀阿弥陀三尊像 -
- ◆ 文殊菩薩と三つのお花
- ◆ 木象嵌とは！
- ◆ はじめまして伊藤です
- ◆ あ・ら・か・る・と

2023年1月10日 編集・発行 仏像彫刻「雅風会」
埼玉県所沢市西狭山ヶ丘 2-2090
URL: <http://www1.cts.ne.jp/~h-1butsu/>

◆ はじめに

「雅風会たより」第7号発行の運びとなり、皆様のご厚情の賜物と心から御礼申し上げます。

昨年は、6月中旬には仏像彫刻作品展（協賛）、11月初旬には仏教美術展（支部参加）と、コロナ禍の中にも充実した年になりました。どちらも天気にも恵まれて、参加された皆様、ご来場くださった皆様と過ごした時間は何物にも替えがたく、感謝に堪えません。

仏教美術展は、今秋第60回を迎えます。皆様とまた京都でお会いできますように!!

本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。（岩場記）

◆ 第59回仏教美術展報告

11月3日搬入日、お天気にも恵まれて明日から始まる仏教美術展を祝福するがごとく、車窓からの時期としては雪が少なめな富士山が望まれました。

展示作業は皆様の共同作業のおかげでスムーズに終了することができました。ありがとうございました。

雅風会として第56回仏教美術展から参加し、今回第59回仏教美術展は実質3回目の出品になります。（第57回はコロナ禍のため残念ながら中止となりました）。今回は新しく仏像彫刻を始めて1年ほどの会員の方、数十年も彫り続けている方々等、今までで最多の12名が出品されましたことは、雅風会会員の方々一人一人が日々努力を積み重ねてきた証の表れと思われ大変うれしいことでした。



4日～6日までの仏

教美術展で松久宗琳佛所の先生方の素晴らしい作品の数々をすぐそばでぐるりと観られることは、大変勉強になります。この先どこかのお寺さん他に納められた場合は、二度と至近距離で観ることはできません。毎年のことですが、この機会にしっかりと脳裏に焼き付けておきたいと思いました。

今年は節目の第60回仏教美術展ですので、雅風会の皆様の力作の出品を昨年同様に是非よろしく願いいたします。（竹内記）

◆ 川村先生の作品から - 白檀阿弥陀三尊像 -



「第59回仏教美術展」では、川村雅則佛像彫刻記念館から故川村先生の作品「白檀阿弥陀三尊像」をお借りし、雅風会コーナーに展示しました。（写真左）この作品は、「第48回仏教美術展」（写真右）に出展されていますので、会場には



作品を覚えていらっしゃる方もおられ、声をかけていただいたときはたいへん嬉しかったです。

今回は、新しい会員の作品とともに展示し、たくさんの方に観ていただくことができました。いつも記念館で私たちを笑顔で迎えて下さり、大切な所蔵作品を快くお貸しく下さいました館長ご夫妻に、この場を借りて心より御礼申し上げます。（岩場記）

◆ 文殊菩薩と三つのお花 (小松 博之)

十七年前の事です。小学校からの親友が大阪に単身赴任しており、どうしているかと思い、東京から様子を見に行ったことがありました。彼の休みの日、奈良の浄瑠璃寺、岩船寺、般若寺とちょっと行きにくいお寺に車で連れて行ってくれたんです。写真の好きな彼は写真を、私はスケッチブックに簡単なスケッチをして一日楽しんで大坂に戻ったのです。般若寺の文殊菩薩に出会ったのはこの時です。まだ彫刻をする前です。2月だったので水仙がきれいでした。

その後、佐仲努さんと出会うことができ、この菩薩を彫りたいと話したら、なんと、図面と写真と細部の彫り方一式を送ってくれたんです。感激ですよ。さっそく取り掛かりましたが、コロナと自分の入院などがあって足かけ3年で何とか彫りあがったのが、今年の京都展に出品したものです。ハスの花びらも丁寧に彫ったつもりです。



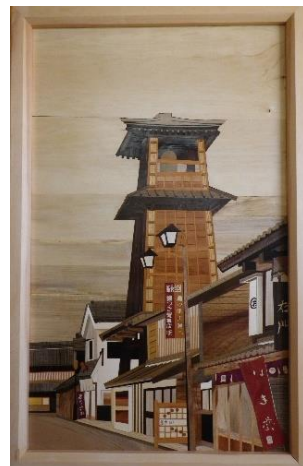
この京都展の合間に、今度は家内と般若寺を訪れ、お参りをしたのです。背丈ほどのコスモスがいっぱい私たちを迎えてくれましたよ。すごくきれいでした。水仙、ハス、コスモス3つのお花に背をおさされて無事家に戻れました。京都展ではそれはそれは素晴らしい作品をたくさん拝見でき、またやる気を出した次第です。健康に留意しながらすこしづつ彫っていこうと思っています。出来ればいつかニューヨークのメトロポリタン美術館の一角を借りて個展を開きたいものです。こんなことを言っていると、‘何をバカなことを！調子に乗るな！と文殊様に叱られますね。



◆ 木象嵌とは！ (梅原 徹士)



木象嵌とは！木の象(かたち)を嵌(はめる)意味です。象嵌の仲間に皆さんご存じの螺鈿細工は貝の持つ色合い、模様等を生かした一種の象嵌細工です。木象嵌は木が持つ色合い、木目等を絵模様を生かした一種の絵画かもしれません。奈良の正倉院に同じ技法で作られた木画(紫檀槽琵琶)が残されています。材料には一切「染色や着色」は施されてはいません。すべて、その木が持つ色を使ってバズルの要領で作ります。その製法は、まず仏画を描くことから始まります。鉄線(細い線)で仏画を描き、木の色合いを画面に置いていきます。黒は(黒檀、黒柿)赤は(バドック)白は(桧みずき)など、板の厚みは5~6mmに加工しておきます。例えば、木象嵌で「茜富士」を描くと、まず富士山本体を黒檀(黒)の板を糸鋸で切り抜き、続いて、バックの空の色をホウの木(グレー)で切り抜きます。この2枚の板で「富士山の影絵」が出来ます。「富士山の影絵」の富士山本体の半分ほどから上を、色合いを考慮しながらバドック(暗赤色)に取り替えます。3枚の板を隙間なく組み込みます。これで「茜富士」の出来上がりです。この様に材料の持つ色を組み合わせて絵を描き、最後に表面を鉋で段差を無くし、クリア塗装して出来上がりです。一番苦勞するのは、色板(材料の板)を集めることです。



※木象嵌の作品は、長い仏教美術展で初出。写真は、出品作品「悲母観音」(左)と「時の鐘」(右)

◆ 初めまして伊藤です

初めまして、令和4年7月に雅風会に入れて頂きました伊藤と申します。雅号は宗仁です。よろしくお願ひいたします。



今回は私が担当しております仏像彫刻教室で、南魚沼市浦佐にある「池田記念美術館（*）」の教室を紹介させていただきます。

当教室は東向きの大きなガラス張りのロビーにあり、越後三山をバックとした池に面し、自然光の下で彫刻が出来る素晴らしい教室です。教室内は丸テーブル1つに生徒さん一人と、ゆったりとしていて、仏像彫刻に専念出来る環境です。

ここでいつも思うことは、昔の仏師は十分な照明もない中、このような自然光の下で彫刻していたのかな、ってことです。

この教室の生徒の皆さん、彫刻に一生懸命取り組まれていて、「教えることは教わること」だなと、いつも感じております。

未熟者ですが、これからもよろしくお願ひします。



*：池田美術館は公益財団法人池田記念スポーツ文化財団が運営しています。（伊藤記）

*** あ・ら・か・る・と ***

◆ 第60回仏教美術展のお知らせ

日時：2023年11月2日（木）～11月5日（日） ※2日（木）は、作品搬入および会場設営日。

開催・出品お申し込みの詳細は、7月発行予定の第8号でお知らせします。

研鑽会、教室、賛助会の皆様、出品ご希望の方は、作品の準備をよろしくお願ひいたします。

◆ 研鑽会会費納入のお願い

研鑽会の年度は「4月～翌年3月」、賛助会の年度は「7月～翌年6月」です。会員の皆様には、引き続きご継続いただけますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

また、新しい会員の方も大歓迎です！！入会ご希望の方は、岩場（090-2486-0298）へお気軽にご連絡ください。お待ちしております。

詳細は、当会ホームページをご覧ください。

◆ 川村雅則佛像彫刻記念館へご来館の皆様へ

新型コロナウイルスの感染予防対策を継続して実施しています。記念館へ来館（見学）される時は、お手数ですが、事前に記念館（080-3360-4019）までご連絡ください。また、ウイルス感染予防及び拡散防止のため、マスクの着用にご理解ご協力を宜しくお願ひ申し上げます。